

2004年
(平成16年)
1月10日 発行

Ｊ．宍山たけし行社 株式会社
連絡先 八丈島八丈町三根 1618 TEL 04996-2-1600
メール takeshi-kai@kmym.com
ホームページ <http://www.kmym.com/takeshi/>

八丈を変えるニュース

第5号



ブロードバンド元年

パブリックロードレースも全国に生中継できる。議会中継も現実味を帯びてきた。

2004年。この春にははいよいよブロードバンドがやってきます。こんなに早く実現できるとは、つい半年前には想像もつきませんでした。「離島だからこそ必要」と確信し、約2年にわたって運動してきました。仲間呼びかけ、ニーズを調べ、町を動かし、都や国に訴え事業者と交渉し……。そして次第に広がっていった運動はついに実ったのです。いま、何と複数の事業者が普及を競う事態がおきています。

私たちがこれからやらなければならないことは、この新しい環境を最大限に生かした町づくりです。首都東京へ1時間の交通手段を持ち、海にも山にも間近に接することのできる自然豊かなこの島に、ついに超高速の情報伝達手段もそろったのです。こんな恵まれた環境が他にあるでしょうか。農漁業や加工業などの地場産業にも、また流通の分野にも新たな発展のチャンスが出てくるし、新しい事業をおこす若者たちの出現も期待できます。

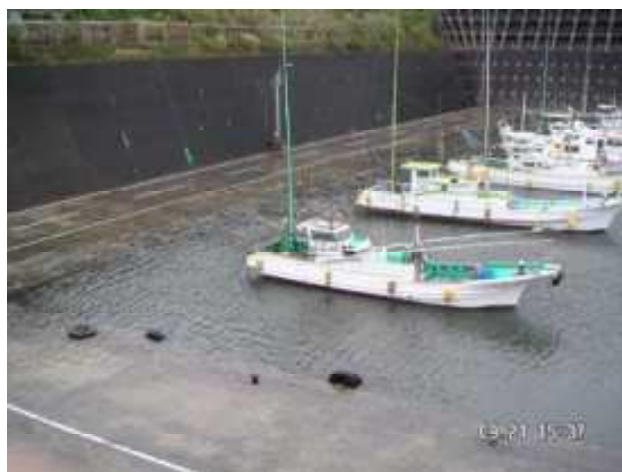
日本経済はまだまだ厳しい時代が続くでしょうが、町政50周年を迎える八丈町は、今年は飛躍の年になるかも知れません。いや、そうしなくてはならないと思います。

八丈島「特別区」に3千人の署名

東京都島嶼町村一部事務組合が、管理型最終処分場の建設用地として中之郷の民有地を選定したことについて、今、地元住民を中心とする強い反対の声が上がっています。「大切な水資源を守り郷土の未来を考える会（大沢進也代表）」は「中之郷水源地域に管理型最終処分場を建設する計画に関する陳情書」を12月初旬に東京都知事、一部事務組合、環境大臣、総務大臣、そして八丈町長宛に提出しました。この陳情書に対しては、八丈町に居住する者2751名、島外居住者568名、合わせて実に3319名もの人たちの署名が寄せられています。これまで地元住民の意向をほとんど聞かずに進めてきた用地選定に対して、地元中之郷の7割以上の住民を始めとする、多くの住民の反対があることが、この陳情書への署名で明らかになりました。

異常潮位

八丈島では潮位が異常に高くなる現象がいつからか続き、漁港の岸壁の表面近くまで上昇することが日常化しています。そのため、先の台風15号の際は、ピークが満潮と重なったこともあって、神湊港では潮位が岸壁を1.5メートルも越えてしまいました。そして、繫留してあった漁船のうち1隻が、



潮位は岸壁を越えてしまっている。(台風襲来直前の八重根漁港)

後部が岸壁に乗り上げてしまっていて破損し、そのまま浸水して廃船に追い込まれたのです。

そうした中で、漁業関係者からは岸壁のかさ上げが必要との声も上がっています。いずれにしても早急な原因究明と適切な対応策をすすめることによって、被害を繰り返さないようにすることが行政としての責務だと思います。

主な議会活動（2003年9月～12月）

- (1) 9月29日 三重県藤原町視察（農業公園ほか）
- (2) 10月6日 全員協議会
- (3) 10月31日 全員協議会
- (4) 11月27日 臨時議会 議員、町役職員の賞与等を減額
- (5) 12月9日～17日 第4回定例会

八丈町議会の第4回定例会は、12月9日、10日、11日、そして17日の4日間にわたって開かれました。また、この議会を控えて12月初めから中之郷住民を中心にした「大切な水資源を守り郷土の未来を考える会」（大沢進也会長）が、管理型最終処分場を中之郷への建設することに反対する署名運動をおこない、3319名もの署名を八丈町長宛に提出しています。そこで私はこの住民の声を重く受け止め、これを支援する立場から一般質問を行い、町の誠意ある対応を求めました。



◆処分場予定地への反対表明に誠意ある回答は得られず

12月9日の本会議で、私は「管理型最終処分場建設計画策定において八丈町の住民意思はどのように反映されたか」と題して質問、住民意思が建設計画に反映されず、結果として問題の多い土地を候補地として選定することになった点を追及しました。それに答弁したのは町長、助役と住民課長。しかし、そこには3000名を越える署名に対する町、執行部の誠意ある姿勢は感じられませんでした。

管理型処分場建設の構造や建設地をめぐっては、町議会で白熱した議論が行われてきています。そして町長は6月の定例会で、一部事務組合の計画案に沿ってオープン型施設を中之郷地区に建設すると言明しました。しかし、中之郷住民からは強い異論が出てきたのです。今後は、不安を訴える住民の主張に誠意を持って対応し、住民の理解を前提にして建設できるよう、私自身もいっそう努力を続けていくつもりです。

第4回定例会での一般質問と答弁（12月9日）

管理型最終処分場建設計画に 住民の意思をどのように反映したか？

小宮山 東京都島嶼町村一部事務組合が、管理型最終処分場の建設用地として中之郷の民有地を選定したことについて、地元住民を中心とする強い反対の声が上がっているが、その背景には、この用地選定にあたって住民の意思を反映するための手続きが充分に行われず、その結果、その予定地にある問題点を見いだせなかったことに手続き上の失敗があると思われる。今後、さまざまな分野に広がることが予想される広域行政を進めていく上で、八丈町の自主性を失うことなく最善の対処をするためにも、今回行われた一組の行政手続きとそれに対する町の対応を検証し、問題点を明確にしておかなければならない。

予定地選定の経過は？

小宮山 一組が建設予定地として複数の候補地をリストアップし、絞り込んでいく過程において、八丈町はこれにどのように関与し、かつ本議会の意思はどう反映されたのか？

住民課長 町では八丈町執行部と八丈町議会が平成13年12月中旬より作業を進め8カ所を選定した。1月上旬にはコンサルト会社が各法規制の網をかけ合計21カ所が1次選定され、1月下旬にはコンサルト会社が現地調査し、4カ所に選定した。最終選定も、コンサルト会社が利水、自然環境等を評価して最適候補地選定を行った。

町長 中之郷地区には気の毒で、諸手をあげて賛成は出来ないけども、立派なものをつくってもらおう、ということで、そこが一番最適地として、都へも上げ、国にも上げている。その間、一部組合に議員の皆さんと話して議論して下さい、予算処置もしますと取り組んだ経過もある。

小宮山 住民や議会の意思をどのようにこの用地選定に反映したのかが、明確でない。議会はわざわざ問題の土地を避けて、8カ所を提案したと聞いている。町長は、多くの議員が用地選定に関わると地域間の利害が絡むと言って、その結果、町は2002年2月に事務レベルで21カ所をピックアップし、その翌月に委託業者が4カ所に絞り、すでにその時には本命の1カ所について土地購入の可能性を調査している。その事務レベルとはどの方々なのか。一組は、中之郷住民に2002年の4月に、買収の自信はあると述べていて、地権者との間で交渉をやっていたことが判るが、八丈町の意味が、どのように用地選定に関わったのか、どういう方々が用地選定を行ったのかを明らかにしていただきたい。

助役 今の候補地が利権が絡む場所だから避けたという認識はない。また、「(議員が関わると) 利害関係が絡む」というのは後から出てきた話ではない。土地購入の可能性を一組が調べたというが、抵当権をおさえている銀行が譲ってくれるかを調査するのは当たり前のこと。

質問からはずれるが、今回の署名活動の文章を読むと、まったく2番議員(小宮山)の勉強不足。今まで自然を守ってきたところにクワを入れるなという文章であるが、あそこは八丈島が東洋のハワイとして宣伝し、観光地として売り出すためにブルトナーもはいった。そういう歴史の背景がある。

小宮山 そういう開発の結果、水脈が大きく変化したとして住民は今回の陳情に及んでいる。



町長が都の幹部に脅された真相は？

小宮山 町長は「都から八丈が同意できないなら単独で整備しろ、他の事業は面倒も見ないと圧力をかけられ、脅しと感じた」と述べているが、いつ、誰に、どのような場で「脅された」のか。また、町長がそれを「脅し」と受け止めた理由は何か。

町長 あなたは「脅し」と言うが、ぼくにはすばらしいブレン。ただ、そういう方からぼくに指導がある。年度年度で国も都も予算を消化していくから、八町村でやるものは守り、すばらしい地域づくりをやって下さいよと、耳にいたいほど。

小宮山 町長が撤回したと受け止めるしかない。脅しではなく、強い指導を受けたと…。

町長 そういうふうには理解すればいい。

地元の反対にどう対応するのか？

小宮山 今回の用地選定に反対の声を上げている中之郷を中心とする住民の動きを、町長はどう認識しているか。また、今後、この反対の声にどのように対応するのか。

町長 一組には、三月まで環境調査をしなければ変更の返事は出来ないという回答をもらっている。安全で安心の処分場をつくるのでご理解いただきたい。仮に調査が悪かったら先頭に立って反対しますと、それも約束した。

一組の状況をホームページで公開できます。詳細があればお申しつけ下さい。

せん越ながら、タイムスにもの申す

小宮山万里子

い やー、あのタイムス記事を見たときはあせりましたね。ほら、「断水時に取水した水源 坂下地域は大賀郷の井戸から」（12月19日号）って記事ですよ。なにしろ、「この土地にクワを入れるな」（大切な水資源を守り郷土の未来を考える会）というビラの、特に裏の地図の、特に「台風15号による停電で坂下地区が断水した際、給水に使われたのは中之郷の水でした。この水は自然流下のため、停電しても止まらないのです。」の言葉に、その時水をいただいた私としてはおおいに感動し、いろんな人に中之郷建設反対の署名をお願いしまくっていたからです。タイムス記事にいわく「台風15号で断水した時、坂下地域をまわった給水車は…大賀郷の寺山井戸の消火栓から取水しており、坂上地域からは運んでいない」…マジっすか。じゃあ、あたし、ウソついちゃったわけ？ どうしよう…。



と、思っていたところ、新年号のタイムスを見て、またまた、ギョウテン！「本誌前号『断水時に取水した水』の記事中、『坂上からの水は運ばれていない』という部分を訂正いたします」…。

お いおい、訂正だけでいいのか、なんか、もう一言、言う必要があるんじゃないの、と割り切れない思いを抱きなが

豊かな水をたたえている新堤(あらづつみ)だが…

ら、しかし、どーしてタイムスともあろうものがこんなミスをしたのか、と信じがたい思いも抱きながら、中之郷の知り合いに会ったのです。そして謎が解けました。なな、なんと、タイムス紙は、中之郷住民から取材をしていなかった！！

取材って、記者の「いろは」でしょ？ 新米新聞記者は、警察に毎日張り付くことが仕事だと聞く。そこで事件の第一報を得てから、いろんな角度の取材をして客観的な事実をつかみ、記事に仕上げていく。大切なのはウラをとるってことだ。そうか、タイムスはこのウラどり取材を省略したんだ。しかし、最終処分場のあれこれを、建設地域の住民のところに聞きに行かないで、どんな記事が書けるのでしょうか。

そ こで心配になって以前の記事も読んでみる。そうすると12月5日号では「三原山は巨大な水ガメ 至る所に水脈 水道水源は15カ所」の見出しで「三原山系の水脈は、八丈富士の地下にも広がっている」

と15カ所の水源の取水能力の表がある。表の中の中之郷水源は「安川」のみで、しかも8番目のランクだ。これって、中之郷の水源はたいしたことないって言っているわけですか？

さ らにさかのぼり、11月7日号。「雑音『島益』につながるものは……」では、「現実的な方法論の一つとして、建設する地域にはその負担への対価があってもいいと思う」「きれいな水や自然環境といった坂上地域の特性と結びついた新しい地場産業創出」のような「処分場を建設する地域にとってもプラスに転じる発想も必要」と書かれています。

こういう主張はよくあるぞ。原子力発電所などを作る場合、迷惑料として地元が見返りをもらったりするのだ。で、その後も、発電所に地元の人の多くが勤めるとか、発電所が生み出す税金とか、いろんなしがらみや利益が生まれ、事故が起こり大きい被害を被っても、なんにも抗議が出来なくなってしまう。しかし、いくらお金をもらっても放射能は浴びたくないですよ。だから、最近では、こういうアメとムチ作戦は成功しなくなっています。「絶対安全」なはずの原子力発電所のずさんな管理がわかってしまった今、どこもそれを受け入れてくれません。



裏見ヶ滝に流れ落ちる水も処分場の影響を受ける。

や はり処分場だって同じこと。危険性を知らされなかった今の埋め立て処分場で、いろんな被害を受けているから反対しているんだ。先人の教え「この土地にクワを入れるな」を守らず、新堤は汚れた。湧きあがるホタルも減った。水の流れや量も変わった。このうへ「クワを入れ」、自分の家の裏にわき出ている水が枯れるのがこわいから、停電になっても流れる水源を守りたいから、反対しているんだ。三原山の水源破壊にみあう「対価」、なんて、あるのでしょうか？

八丈島でのタイムス紙の影響力は大きい。建クンの12月議会におけるの処分場関係一般質問のネタは、ここだけの話ですが、ほとんどタイムス紙から。それだけ信頼してたってことですよ。記事に記者の主観が入るのは仕方ないが（というより当たり前だが）、タイムスさん、しっかり取材し、客観的な事実を提供して下さいな。建クンの今後の議会活動のためにも……。

“スロー”な公共事業（三重県旧藤原町）



エコ福祉広場。すべて高齢者が設計し工事も行う。

三重県の北西端に位置する藤原町は、人口7500人の小さな町。この12月1日には周辺町村と合併し、新しく「いなべ市」（人口4万5600人）として再スタートした。私は合併を控えた9月にこの町の「農業公園」を視察した。

そこは38ヘクタールの梅林公園と18ヘクタールのエコ福祉広場からできている。広大な梅の林が広がる梅林公園では梅

の花を楽しめるほか、実を加工して販売も行っている。エコ福祉広場には、ガラス温室、パークゴルフ場、ボタン園などがあり、名前のおり環境と福祉の活動をしている。

ところで、この施設は町の高齢者たちが自ら計画をたて、設計し、工事も自分たちでやる。工期は区切らず、建設はゆっくりと進められるが、コストはあまりかからない。さらに、堆肥センター、廃油リサイクルなど、環境対策とも連動し、また介護を要する高齢者が花いじりを楽しみながらのショートステイ施設にもなっていて、福祉施策の一端も担っている。

「広がる”スロー”な公共事業」としてこの農業公園がNHKテレビの『クローズアップ現代』で紹介されたのは2002年の11月。自治体の財政難を逆手にとって、業者に発注する代わりに技術を持った高齢者が主体的に設計、工事に関わり、理想のコミュニティ作りをめざしている点に注目が集まっています。いま曲がり角に来ている日本の公共事業のあり方に一石を投じる「住民による住民のための公共事業」なのです。

小宮山たけし後援会 会則（抜粋）

- この会は「小宮山たけし後援会」と言います。
- この会は、小宮山建（たけし）とともに、住みよい町づくりのための政治・社会・文化活動をすすめます。
- この会の目的を達成するため、政策を研究・立案し、その宣伝・普及をすすめます。
- この会の会員は、本会の趣旨に賛同する者をもって構成します。